

〔八丈島における遺伝・育種資源の収集・評価・保存・増殖〕

クズウコン科植物の切葉としての特性評価（第2報）

～1月から6月の調査～

伊藤米人・菊池知古^a・金川利夫

（島しょ農林水産総合センター八丈事業所）^a現農林総合研究センター

【要約】切葉生産の新品目として、クズウコン科植物6種について1～6月に調査した。収量は1～3月では見込めないが4～6月は増加し、日持ちは低温期が良好であった。価格の不安定要因はあるが、7～12月と同様に切葉として有望であると考えられた。

【目的】

鉢物用に栽培されているクズウコン科植物の切葉としての出荷が、青ヶ島も含め検討され始めている。しかし属や種の違いによる季節ごとの収量や、出荷後の日持ちのデータが見あたらない。そこで、八丈島の無加温ビニルハウス内で越冬していた種の中から観賞用に適したクズウコン科植物を選び、収量および出荷後の品質保持を明らかにする。2005年度は7～12月について経時的に調査したが、2006年度は1～6月について調査した。

【方法】

- 1) 調査に用いたクズウコン科の植物は、2005年度に調査した6種である（図1，2）。2005年5月上旬に株分けし、約60%遮光の無加温ビニルハウスに畝幅90cm、株間30cm×条間20cmで定植した。
- 2) 調査期間は1～6月とし、調査項目はサイズ別収穫枚数、出荷後の日持ち、市場評価である。日持ち調査は、模擬出荷として2日間ビニル袋に入れて出荷箱で梱包後、花びんに活けて室温で行った。

【成果の概要】

- 1) 月ごとのサイズ別収穫枚数（図1）：①1～3月はいずれの種類も収穫枚数は少なく、2月は全ての種類で収穫できなかった。②4～6月は、4月にメディオピクタ、‘グリーン’は収穫できなかったがそれ以外は収穫でき、オープンハイミアナ、‘グレー・スター’は比較的一定していた。③メディオピクタは4月まではほとんど収穫できず、6月に開花期に入り開花した株は全て収穫した。‘グリーン’は収穫枚数が少なかった。
- 2) 出荷後の日持ち（図2）：①‘グリーン’，グレー・スター以外は、1週間は品質を保持した。②品質低下の状況は、オープンハイミアナとメディオピクタは黄化、ルイーザエ、‘グレー・スター’および‘グリーン’は葉縁部の巻き上がり、‘フミリオ’は冷涼期の日持ちは良好であるが温暖期での黄化が顕著であった。
- 3) 市場評価：オープンハイミアナ、ルイーザエ、メディオピクタは同じ価格であり、グレー・スターの大きいサイズが最も高い価格であった。‘グリーン’，‘フミリオ’は7～12月の様な高い価格は得られなかった。一般に、サイズが大きい方が高い傾向があった。
- 4) 以上より、収量は1～3月では見込めないが4～6月は増加し、日持ちが良好であり、価格変動はあるがクズウコン科植物は切葉として有望であることが示された。

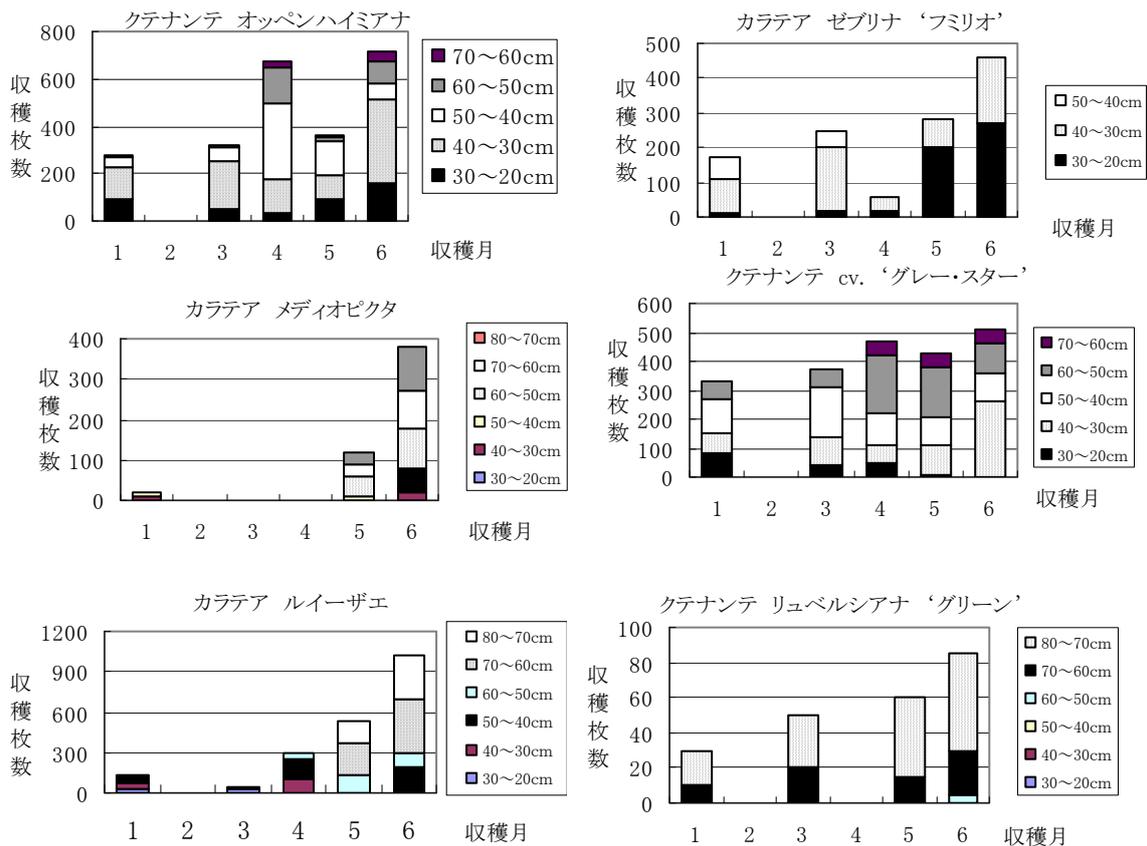


図1 月ごとのサイズ（規格）別収穫枚数

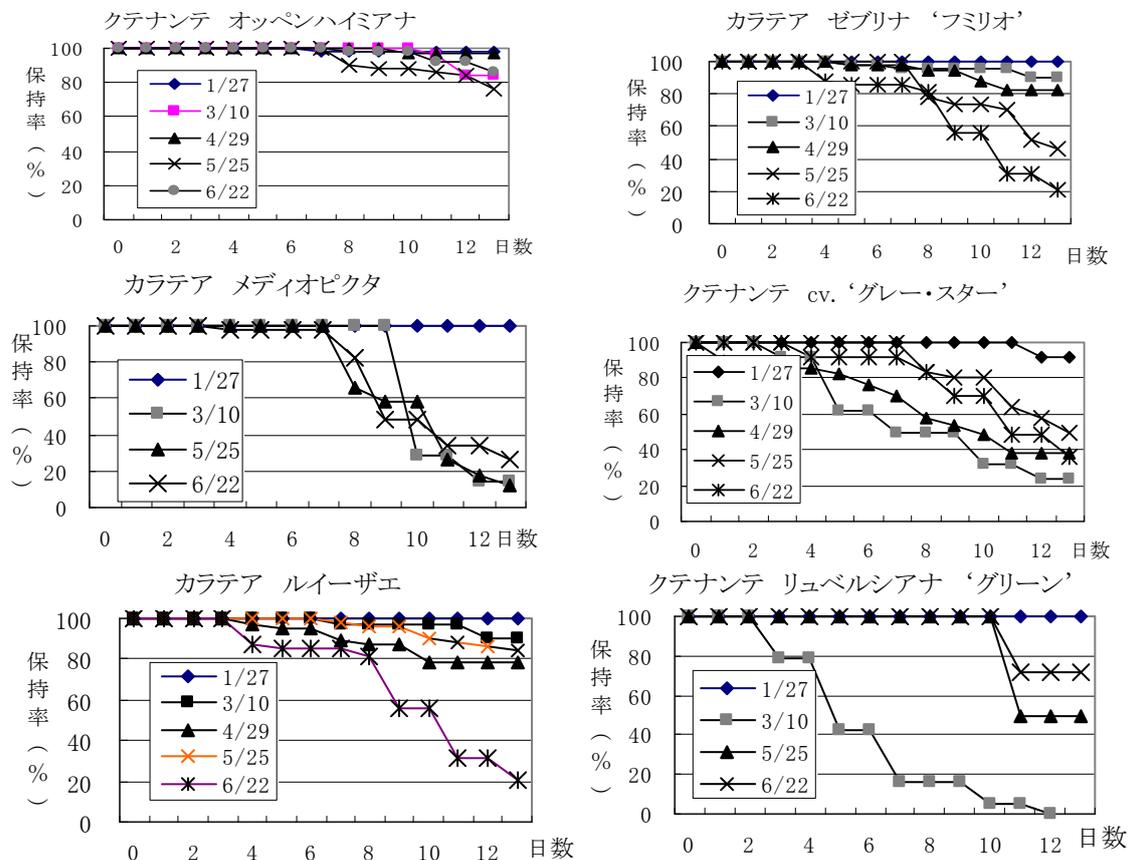


図2 収穫時期別の品質保持日数